

(臨床研究に関するお知らせ)

和歌山県立医科大学附属病院脳神経内科に、パーキンソン病、進行性核上性麻痺、多系統萎縮症で通院歴のある患者さんへ

和歌山県立医科大学脳神経内科学講座では、以下の臨床研究を実施しています。ここにご説明するのは、過去の診療情報や検査データ等を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」という臨床研究で、本学倫理審査委員会の承認を得て行うものです。すでに存在する情報を利用して頂く研究ですので、対象となる患者さんに新たな検査や費用のご負担をお願いするものではありません。また、対象となる方が特定できないよう、個人情報の保護には十分な注意を払います。

この研究の対象に該当すると思われる方で、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

パーキンソン病と非定型パーキンソニズムでのノイズパレイドリアテストに関する後ろ向き観察研究

2. 研究責任者

和歌山県立医科大学脳神経内科学講座 助教 高 真守

3. 研究の目的

ノイズパレイドリアテストはレビー小体型認知症における幻視症状（動物や人の幻が見えるなど）の検出に利用されている検査ですが、この検査をパーキンソン病の患者さんや進行性核上性麻痺、多系統萎縮症などといった非定型パーキンソニズムの患者さんで行った報告はなく、その検査の特性や有用性については詳しくわかっていません。今回、パーキンソン病および非定型パーキンソニズム（進行性核上性麻痺、多系統萎縮症）の双方におけるノイズパレイドリアテストの結果の違いや、双方の疾患を見分ける上での同検査の意義について検討を行います。

4. 研究の概要

(1) 対象となる患者さん

パーキンソン病および進行性核上性麻痺、多系統萎縮症の患者さんで、平成27年1月1日から令和2年12月31日の間に入院されノイズパレイドリアテストの検査を受けられた方のうち、Mini-Mental State Examination という検査が24点以上である方が対象です。ただし眼のご病気がある場合や、ノイズパレイドリアテストが適切に実施できなかったと担当医が判断した場合、ご本人が本研究に同意しない意思を表明された場合は除外させていただきます。

(2) 利用させて頂く情報

この研究で利用させて頂くデータは、診断名、年齢、性別、罹病期間、幻視の有無、常用薬、認知機能検査の点数、ノイズパレイドリアテストの結果、頭部MRIや脳血流SPECTやドパミントランスポーターSPECTの画像データです。

(3) 方法

本研究は本学のみで行います。幻視のあるパーキンソン病の方、幻視のないパーキンソン病の方、パーキンソン病でない方の3群に分けてノイズパレイドリアテストの結果について統計学的な解析を行います。

5. 個人情報の取扱い

利用する情報からは、患者さんを特定できる個人情報削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されることがありますが、その際も患者さんの個人情報が公表されることはありません。

6. ご自身の情報が利用されることを望まない場合

臨床研究は医学の進歩に欠かせない学術活動ですが、患者さんには、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合、これを拒否する権利があります。その場合は、下記までご連絡ください。研究対象から除外させていただきます。なお、研究協力を拒否された場合でも、診療上の不利益を被ることは一切ありません。

7. 問い合わせ先

和歌山市紀三井寺 811-1

和歌山県立医科大学脳神経内科学講座 担当医師 松本 拓也

TEL : 073-441-0655

FAX : 073-441-0655

E-mail : tkytmnt@wakayama-med.ac.jp